

令和7年度 学校関係者評価委員会における委員の意見及び本学の認識・対応方針

評価分野	委員の意見	本学の認識・対応方針
2 学校運営	【田村委員】 教員研修について、一般的な研修、例えばハラスメント研修等外部の講師に依頼して実施しているのか。	・令和6年度職員研修として、農産園芸課管理調整監を講師として招いて、ハラスメント研修を行っています。 ・教員の能力開発のための研修等を随時情報提供し受講を促すとともに、情報セキュリティなど職場における研修を計画的に実施していきます。
3 教育活動	【松尾委員】 学生数を増やして、もっと世に送り出していただきたいと思うのだが、現実的に可能なのか。	・条例、学則で定員 20 名と定められており、定員を増やすには条例、学則の変更、施設設備や教員数の見直し等が必要となります。 ・できるだけ多くの学生を育て世に送り出すために、教育の質を確保しつつ、教育環境の充実を図りながら、可能な範囲で 20 名以上の受け入れも含め柔軟に対応しています。
	【神谷委員】 三つのポリシー、あるいは学校の教育目標などを入学された学生さんにしっかり把握してもらうことは、一番大事だと思う。最初にガイダンスで話をされると思うのだが、どのように説明しているのか。	・三つのポリシーや教育目標などは、4 月最初に開催するガイダンスにおいて、学長、教務課、教員それぞれから説明を行っています。
	【神谷委員】 履修登録やシラバスの説明について、後期はどのように説明しているのか。	・後期の授業については、後期が始まる前に時間を設けて、教員から授業目標等シラバスの説明を行うとともに、教務課から履修登録について説明をしています。
4 学修成果・教育成果	【神谷委員】 資料 4-1 で進路状況を説明いただいたが、卒業生全員が就職され、就職率 100%ということでしょうか。就職率 100%といった記載もしていただけるとよい。	・令和6年度卒業生 22 名中就職希望者は 21 名で、就職希望者の就職率は 100%です。残り 1 名は国内花き生産者での研修を希望し、研修先が決定しました。資料 4-1 に就職希望者の就職率 100%という記載をします。

	【神谷委員】 ぎふワールド・ローズガーデンで、いろいろと実践教育をされたと思うが、学生さんの感想等教えていただきたい。	・1年生栽培・生産論の授業評価アンケートにおいて「ぎふワールド・ローズガーデンに行き、実際に病害虫を探したり症状を調べたりできたことが、原因究明の難しさを実感できることに繋がって良かったと思います。」という学生の感想がありました。 ・県営公園における植栽管理を行うことにより、手法やスケジュール管理等学ぶことが出来、一般来場者とコミュニケーションを図ったり、販売実習において接客などを経験し、緊張感をもって取り組むことができる等教員は活用効果を確認しています。 ・一方、ぎふワールド・ローズガーデンで授業を行う場合、学生はバスに乗ってぎふワールド・ローズガーデンへ移動する時間のロスがあり、授業を半日単位もしくは1日単位で計画するなど工夫をしていますが、移動時間がかかるデメリットの解決は難しいところです。 ・今後も活用した中で、学生がどんな印象を受けたか、教員がどのような苦労があるか等検証しながら進めていきます。
5 学生支援	【小栗委員】 卒業生の相談窓口について、どのぐらい実際に利用あるか。 また、どのぐらい周知徹底されているのか。	・ホームページ上に卒業生の相談窓口を設置しているが、実際にアクセスはほとんどない状況です。現実には、教員に直接ラインや電話で相談があり、内容について教員同士で情報共有して、様々な相談にのっています。 - 毎年相談はあり、年間5件以上相談がある現状です。 ・教職員で情報共有しながら、今後も卒業生に寄り添う相談対応を行っていきます。
10 社会貢献・地域貢献	【佐々木委員】 私たちが学園祭等イベントの情報を得るのは、インスタグラムが一番多い。どんな情報を載せているか、そのタイトル画面のようなものが、一番新しい情報で出てくるとよい。	・いただいたご意見を参考にさせていただき、できるだけわかりやすく、タイムリーな情報を新しい情報の場所で載せるようにします。
	【柿本委員】 SNSを見ている人は、何の、どこかの投稿かわかっていない状態で見ているため、一つ一つの投稿のところに、すべて情報がとれるようにする必要はある。日常の投稿の際には、岐阜県可児市にある〇〇が学べる学校 国際園芸アカデミーで、住所と電話番号を毎回載せていくことなどをされると、今の若い子が情報を知ってくれる可能性が高まる。 もう一点、今見せたい投稿を固定させるピン留めという機能がある。ピン留めは3つまでできるので、ある期間、一番見せたいページは、ピン留めで固定しておいて、一番トップのページで見つけやすくしておくという方法をお使いになるとよい。	・新しい機能、まだ取り組んでいない手法など、速やかに取り入れ実施します。

全体と通した意見交換	【加藤委員】 以前に比べ学生が多くなっていると感じる。これも先生方の指導の賜物で、本当に素晴らしい教育をいただいている。 自己評価については、自信を持って、全体にもう少し高い評価をしていたいても良いのではないかと感じました。	・自己評価については、毎年度評価値目標を定めて実施しています。今後も職業教育の質を維持・向上させるために、継続的に点検・評価を行っていきます。
	【水野委員】 国際交流について、その他の評価値に比べると、少し低めになっているところが、残念に思うところ。この国際園芸アカデミーというところで、国際的な学びをするのか、国際的な存在である学校であるのか、国際的な人材を育成する学校なのか。国際をどう捉えながらやっていくのか。	・国際交流の評価項目は、留学生の受入れや海外への留学の観点で評価するため、私どもの規模の学校では非常に難しい部分があり、評価値が低くなっています。 ・本学での国際交流の取組としては、フランスの学校からインターン生の受入れを行い人材育成面での連携を行っています。また、中国の学校関係者の学校訪問、そして国際園芸アカデミーからフランス、中国の学校を訪問して学校同士の連携体制について、強化をはかっています。 ・授業の中で、海外の庭園の話や、海外の園芸事情について取り入れ、国際的な学びを学生に提供しています。 ・今後も海外を対象とした情報発信と情報収集をすすめていきます。
	【古田委員代理】 令和7年6月から法整備があり、働く環境をいかにつくるか、維持するかということで、かなり求められるものが高くなってきている。我々としては、外で働く従業員に対しては、空調服を支給し、勤務に関しても、温度設定をして、一定時間以上勤務をしない、休憩交代を含めて対応するというのをやるようになってきた。 園芸アカデミーさんも外で学ぶという機会がある中で、気をつけてやっていращゃると思う。10年、20年前とは全然違う環境になっているというのを踏まえると、本当に注意してやっていかなければならない。	・思い切った建物改修は難しいが、計画的に改修・修繕予算を組んでいきます。 ・学生の学ぶ環境を、学生にとってどれだけいいものにしてあげるかということが、知識技能の向上につながるため、建物設備や授業内容、授業実施方法等多方面に十分に留意をして対応していきます。